

住宅メンテを営業ツールに

アイジーコンサルティンゲ

公平な住宅診断で工務店支援

アイジーコンサルティンゲ（静岡県浜松市、井上剛一社長）の住宅メンテナンス事業「住環境価値創造モデル2010」が、国土交通省が定める10年度第1回長期優良住宅先導事業に採択された。同社では、アフターメンテナンスによる工務店支援体制の構築に向け、提携企業を募集しながらネットワーキ化を図っている。

同事業は「住宅を長持ちさせる」ことを基本理念に、計画的な住宅診断で最良のメンテナンスを行っていく仕組み。劣化の早期発見に役立つ2年半ごとの定期診断や住宅全般を診断してメンテナンス計画を立案・更新する10年ごとの総合診断、緊急トラブルに対応するI・G生活サポート倶楽部を合わせた3つの住宅診断が軸となる。

同社のビルダーサポート推進室を中心に地域工務店とアフターメンテナンスシステムの業務を提携し、同社が第三者の立場で公平に住宅診断を行う。診断履歴を同社・工務店・居住者との間でWEB閲覧により共有し、履歴情報を透明化。住宅の点検と履歴の蓄積を一元化した。公平性と信頼性が高い診断で、居住者への快適な住環境の提案と、工務店のビルダーサポート推進の小出純プロジェクトマネージャーは立している。

提携工務店は、自社の収益につなげるアフターサービスの提案営業が可能。自社が手がけた新築住宅を継続的にメンテナンスすることで、顧客との関係構築に役立つ。

ビルダーサポート推進室の小出純プロジェクトマネージャーは「住宅メンテナンスが工務店の営業ツールとなる。住宅の資産価値を維持する公平な住宅診断で、適切なメンテナンスを顧客に提案できる」とし、同事業により住宅メンテナンスの普及を目指していく。

26事業主体を採択

国土省の建築基準整備促進事業

国土交通省は、10年度建築基準整備促進事業の28事業を発表した。建築基準法に係る技術基準を整備するため、民間企業に協力を求める事業で、5月11日から6月4日までの